

交通地獄

「交通地獄」という言葉が生まれたのは、今から90年ほど前の昔のことです。「昭和、平成家庭史年表」によれば、1932年7月から11月までに警視庁管内で、13歳未満の子供の交通事故死が93人にのぼりこう呼ばれるようになったということです。昭和の初めころだが、酷い事故がしばしば起きていたのでしょう。

当時の自動車保有台数は全国で10万台余りとされている。既に、バスもタクシーもトラックも走っていました。やがて戦後の高度成長期にはマイカーが激増し、惨事が繰り返され、世の中は騒然となりました。交通事故の犠牲者はピークの1970年に1万6765人を記録しました。昨年の交通事故死は2,610人。6年連続で過去最小となりました。しかし、こんな時代にも地獄は現れます。戦争は終わっていません。

北海道八雲町でトラックが高速バスに衝突して5人が亡くなった事故はそう訴えていよう。周囲を走っていた車のドライブレコーダーには、トラックが反対車線にはみ出した瞬間の破滅をとらえていました。様々な努力を重ねて日本の交通事故死をかつての6分の1にまで減少しました。それでも尚、失われる命は多く唐突に肉親を奪われた人々の嘆きは絶えないのです。家庭史年表を紐解くと「交通地獄」の出現の前年には交通安全デーが神奈川県で実施されている。気を抜くことは出来ません。一世紀におよぶ闘いです。

鎌野



還暦

この7月で私、59歳となります。来年はいよいよ還暦です。若い頃には、自分が還暦になった時の姿なんて、想像もつきませんでした。なってみれば、まあ、どうってことないですね。60歳になればもう少しでもいいから、年金貰おうかと思っています。

うちの家系は長生きではなく、高血圧・糖尿病・大腸癌・脳梗塞・脳溢血の家系でもあり、祖父が67歳、父が69歳で亡くなっています。先祖の墓石に刻まれている年齢も、長生きの人はほとんど居ません。なので、長生きする自信はないですし、生きている内に年金を貰わないと損でしょう。

我々中小企業の経営者は、自分の給料を下げてでも、社員さんの給料を上げてあげないと、働いてくれる人がなくなります。なので、年金を貰った分、私の給料を少しでも減らして、社員さんの給料に回せればと思います。まあ、今までもそうなんですけどね。

祖父と父を超えるまで後10年しかありません。人間いつ何があるか分かりませんから、そろそろ終活を始めたいと思います。

英樹



配り

第289便

勝亦製材駿河鉄骨株

住まい塾御殿場教室

TEL (0550) 87-0048

FAX (0550) 87-1237

〒412-0035 御殿場市中山518番地

空は青山は緑となりにけり紺瑠璃のツバメ羽音もたてず

ねがみともみ



トルコ地震恩に報いる時ぞ今七十六歳募金するなり

林 なをみ



青もみじさやく朝方とつときの我がひとときよ庭草を引く

勝亦 りつ子



無い方がいいのだけど

ここ数年で線状降水帯とか大雨特別警報とか50年に一度の大雨、なんてのをよく耳にするようになりましたね。地球規模の気候変動によるものなのでしょう。ちなみに「50年に一度の大雨」というのは過去の観測値を元に気象庁でその地域ごとに決められた値があり、例えば御殿場市では48時間の累積雨量が688mm、3時間雨量が212mmを超える恐れがある場合に使われます。まあとにかく想定外の大雨が頻繁に降る様になってしまった、という事ですね。さて、建物というのは造ったその時から劣化が始まります。経年劣化であったり紫外線での劣化であったり、強風や地震などの外的要因での劣化（損傷）などがあります。我々建築に携わる者は極力これらが発生しないように試行錯誤していますが、残念ながらこれは避けられない事なのです。諸行無常盛者必衰。そしてこれらの劣化が起きると発生しやすくなるのが雨漏りです。ここ数年想定外の大雨で雨漏り、浸水などの相談もかなり増えています。

雨漏りは住宅にとっては厄介な代物で、雨による湿気は腐朽菌や白蟻を呼び寄せ、放置すれば大きな痛手を負ってしまいます。修繕費用もどんどんと…なので雨漏り、漏水などに気づいたらすぐにご連絡ください。

で、です。コレを読んでいる皆さんにお願いします。無い方がいいのだけど、まさに水の垂れているその時に雨漏り・漏水の状況がわかる写真や動画を残しておいて欲しいのです。

どこからどの程度の水が流れたのか、天井か壁か、枠の上なのか下なのか角なのか、それらが雨漏り箇所特定の大きなヒントになります。雨漏り箇所の特定が出来れば、短期に安価に修繕が可能です。近頃のスマートフォンのカメラはかなり高画質なのでとりあえずでも撮っておいていただけたら、かなりのヒントになります。どうか心の片隅に「雨漏りしたら記録！」と留めておいてください。

柳田 敏和



あれだよ、あれ

「あのほら、あれだよ、あれ」『〇〇？』『そうそう〇〇』。「この前△△へ行ってきて、ほらあそこ、え〜と何だっけ？」『ん？×？』『違うよ。ほら涼しいところの御殿場の施設のえ〜と』『あぁ樹空の森？』『そうそう樹空の森』。先日の小学校からの付き合いのお友達との会話。固有名詞はもとより人の名前もすぐに出てこない。そういえば、どこかで『☆〜（昔呼ばれていた名前）』と呼ばれ、「久しぶりだねえ。元気？」などと話をするが、目の前の人の名前がでてこない。確かに子供の頃の（おそらく子供の頃に一緒だった）面影はあり、話し方も雰囲気も変わってはいなく、変わったのは風貌。これは自分もそうなのでなんとも言えないが。散々話した挙げ句、別れても“さて？名前がわからない”あなた誰だっけ？とも言えず…。今度あったら思い出すかな。っと“今度”はもっとお互い風貌が変わっているかもしれない。恐ろしやおそろしや。

これも年を重ねたからでしょうねえ。子供の頃とは時間の感覚が違う。ともかく忘れないうちになにかにメモして〜とスマホのメモに記録するが、頭で覚えているだろうと、買い物すれば、一番必要としているものを買忘れろという…。年寄りがセッカチになるのは、忘れると自覚しているからか。そのことしか頭にないからか。そんなに急かさなくても、と旗から見たら感じるが自分がそうなるのか？と思うと、ゾ！！とする。キャパの余白は沢山もっているように心がけなくちゃ。ね。

友達との会話の中で、「相変わらずあなたは主語がぬけるね」。「ありがとう。だけでは何に対してありがとうかわからないでしょ」と指摘され…。そうだった、私は主語をぬかす癖があるんだった。と反省。

「まあ私達はわかるけどね」。「ほら、あれだよあれ」。で分かるし、と、大笑いしてお開きとなりました。

ねがみ



緑のカーテン

バタフライピーをご存知ですか？タイやインドなど東南アジア原産のマメ科の植物です。暑さに強くツルが長く伸びる性質を活かしグリーンカーテンとして人気が出てきています。SNSをやる方には鮮やかな青いハーブティーを目にした事があるかもしれません。ポリフェノールの一種のアントシアニンが含まれています。アルカリ性のアントシアニンとレモンなどの酸性の物を混ぜることで化学変化による色の変化を楽しみます。私も一度飲む機会がありましたが、お茶自体は殆ど味がありません。

我が家では毎年、居間に面したベランダにゴーヤ、ミニトマト、朝顔の緑のカーテンを設置しています。今年はバタフライピーも加えました。ハーブティーをするかはわかりませんが、青い蝶に似たバタフライピーの花を楽しみたいと思います。



祥子